

BSL-4施設運用に関する安全管理について

廃棄物・排気・排水の処置

大学

- BSL-4 実験室からの廃棄物は、確実に滅菌されたことを確認の上、特別管理廃棄物として処理します。
- 設備機器について、法令を遵守し、確実に滅菌排気等行えるよう、日常管理と定期点検を実施します。
- 実験前に設備機器の異常がないことを確認してから、実験室を使用します。
- 設備機器の管理、点検については、専門知識がある専門の業者に委託します。
- 人的ミスを防止するために、維持管理に係る者についても教育訓練を実施し、許可された専門知識を有する担当者及び業者による点検を実施します。

実験動物の管理

大学

- 全ての種類の実験動物について、全頭数量を確認します。
- 定められた手順で実験動物の管理状態を確認します。
- 実験動物の取扱いは一定以上の技術を持った実験者 2 名以上で実施します。
- 人的ミスを防止するために、実験動物取扱者は専門的教育訓練を受講し、許可された者のみとします。

住民委員 一般の人にわかりやすく整理するために、大学の説明を踏まえ、実験室から排出される「廃棄物等」の処理方法の全体をまとめてチェック項目をリスト化してみたので、参考になればと思い提出する。

大学 実際に施設で使用するチェックリストは、何度も何度も修正を重ねた上で完成させ、実際に施設内で働く人が教育訓練等をした上で使えるものになる。頂いた提案は参考にしたい。

住民委員 住民に説明するものは住民が分かるものでないといけなく、流れを1枚にまとめてくれると住民はすごく分かりやすい。住民に対して対策を説明する際には、わかりやすい資料を使って説明していただきたい。

住民委員 大学の説明を踏まえ、動物の種類ごとの個体・頭数の管理、入退室確認及び異常時対応、保管状況確認の3つに分けてチェック項目をリスト化してみたので、参考になればと思い提出する。

住民委員 ウイルスに感染した個体とそうでない個体がこの中に混在しているのか。

大学 感染した動物と感染していない動物は分けてアイソレーター（動物用飼育装置）に入れる。一つひとつのケージが独立で給排気するようになってるので、ケージ間で感染伝播がおこることはない。

地域連絡協議会委員による実験棟見学（2021年6月2日）

これまで、地域連絡協議会においては、資料等を用いてBSL-4施設について説明し、意見交換を行ってきましたが、BSL-4施設の竣工間近の2021年6月に、他に先駆けて地域連絡協議会の委員の皆さまに実際のBSL-4施設を見ていただき、意見交換を行いました。またその後の地域連絡協議会においても、この見学を踏まえた意見交換を行っています。

住民委員 今まで説明を聞いたり、国立感染症研究所を見学したりした経験から自分なりに問題点を色々と考えていたが、今回実物を見ながら使い方の説明などを聞いてストンと落ちるところがあり、すごく良かった。

有識者委員 安全性の観点でいえば、すごく安心感が持てる設備が出来ていると感じた。ハード面での安全性は確保されているので、引き続き、ソフト面での安全管理について、あらゆる観点で検討をお願いしたい。

有識者委員 実物を見て、安全安心に配慮したセキュリティ対策がされていることがはっきり分かった。協議会でもマニュアルやチェックの話題が出ていたが、あとは人がやることなので、エラーが出る可能性がある。施設に入る者は十分な訓練をきちんと受けたうえで入ると思うが、二重三重をお願いしたい。

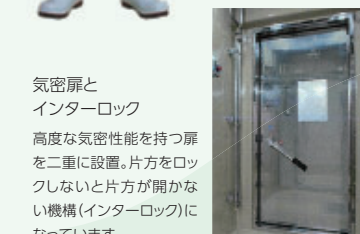
住民委員 自治会の班長会でBSL-4施設内を見学したことを報告した。一番心配していた感染動物が逃げ出すことは不可能な構造になっていたので安心するようにお伝えし、問題はヒューマンエラーやテロであると感じたことなどの感想を報告した。BSL-4施設内で何をやっているのか分からないというのが一番不安なので、可能な範囲で、安全に実験が行われていることを住民にきちんと情報提示して欲しいという意見があった。

住民委員 地域連絡協議会において、これまで様々な形で説明を受けてきたが、実際に見学してみて、予想を上回る設備を備えた安全な施設である事が分かった。今後、機器搬入・設置後、複数の稼働試験を行い、体制を整えていくことになると思うが、これからが真の始まりだと考えるので、安全安心を忘れることなく対応していただきたいと思う。



陽圧防護服

密閉可能な合成樹脂製の服に空気供給用のホースを着装し利用します。服内は陽圧（外部の圧力より高い状態）に保たれて外部の空気を遮断し、ウイルスや有害物質の侵入を防ぎます。



気密扉とインターロック

高度な気密性能を持つ扉を二重に設置。片方をロックしないと片方が開かない機構（インターロック）になっています。



オートクレーブ（高圧蒸気滅菌装置）

実験室側から廃棄物をオートクレーブ内に搬入し、121℃以上15分以上の条件でウイルスを完全に死滅させた状態で室外側扉から搬出します。